

新学習指導要領で評価が変わる！

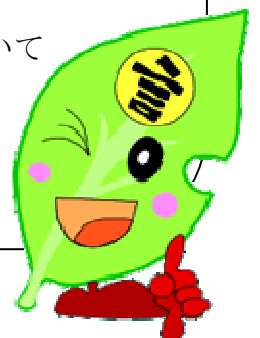
新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 図画工作科)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校図画工作科における教科目標、評価の観点のその趣旨について
- 3 小学校図画工作科における学習評価の進め方
- 4 小学校図画工作科における学習評価事例
- 5 小学校図画工作科における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の関わったの最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落としていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・ <u>表現</u> 」
「技能・ <u>表現</u> 」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

小学校 図画工作科における教科目標、評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら，つくりだす喜びを味わうようにするとともに，造形的な創造活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う。

「感性を働かせながら」という文言が加わりました。

子どもの感覚や感じ方，表現の思いなど，自分の感性を十分に働かせることが大事ですね。



2 図画工作科における評価の観点及びその趣旨



図画工作科の評価を進めていくときには，まずは，その題材で何をねらうのか，どんな力をつけさせたいのかを決めることが大切です。4つの評価の観点と趣旨，各学年の評価の観点の趣旨は，以下のようになっています。

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
造形への関心・ 意欲・態度	<観点の趣旨> 自分の思いをもち，進んで表現や鑑賞の活動に取り組み，つくりだす喜びを味わおうとする。		
	思いのままに表したり，作品などを見たりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	自分の思いで表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	自分の思いをもって表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	<観点の趣旨> 感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途などを考えたりしている。		
	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり， <u>形や色</u> ， <u>つくり方</u> などを考えたりしている。	感じたことや見たこと，材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり， <u>形や色</u> ， <u>用途</u> などを考えたりしている。	感じたことや見たこと，材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり， <u>形や色</u> ， <u>用途</u> や <u>構成</u> などを考えたりしている。
創造的な技能	<観点の趣旨> 感覚や経験を生かしながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫している。		
	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い，工夫して表している。	手や体全体の感覚を働かせながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫している。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，様々な表し方を工夫している。
鑑賞の能力	<観点の趣旨> 作品などの形や色などから，表現の面白さをとらえたり，よさや美しさを感じ取ったりしている。		
	身の回りの作品などの形や色などから， <u>面白さ</u> に気付いたり， <u>楽しさ</u> を感じたりしている。	身近にある作品などの形や色などから， <u>表現の感じの違い</u> をとらえたり， <u>よさや面白さ</u> を感じ取ったりしている。	親しみのある作品などの形や色などから， <u>表現の意図や特徴</u> をとらえたり， <u>よさや美しさ</u> を感じ取ったりしている。

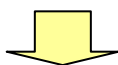
※ 下線部は，各学年のポイントとなる部分。教育センターによる。

3 小学校図画工作科におけるこれからの学習評価のポイント



これまで・・・

作品の出来栄や作業量の多さ、表し方の丁寧さなどだけで評価していなかったかな・・・。
作品全体を印象的に捉え、先生の主観性が強い評価になっていなかったかな・・・。



これからの図画工作科における評価のポイント

(1) 指導事項（＝身に付けさせたい力）を明確にもって評価する。

題材の評価規準を設定する時に、その題材における学習活動が、どのような資質や能力を育てることになるのかを明確にすることが大切です。その時間でねらいとすることをしっかり焦点化して指導し、指導したことについて評価します。

(2) 作品だけでなく、活動のプロセスを見取る。

児童がもてる力を自由に働かせたり、新しいことを進んで試したりしているというような造形活動の様子の評価を充実させることが大切です。

4 評価規準設定の進め方 ～どうやって評価規準を設定するの？～

国立教育政策研究所で公開されている「**評価規準等の工夫改善のための参考資料**」（小学校）を基に、必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり、いくつかの設定例を参考にして設定したりすることが大切です。具体的には、以下のような手順で評価規準を作っていきます。

<手順1> 取り組みたい題材を決める

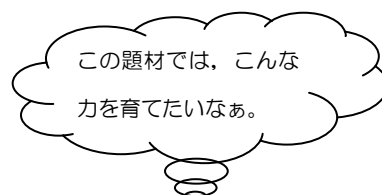


今度は、こんな題材に
取り組ませたいなあ・・・

<手順2> 「**評価規準に盛り込むべき事項**」を参考にしてこの題材で育てたい力を決め

ここが大事！

→「この題材でどのような能力を育成しようとするのか」
「どのような事項を評価規準に盛り込むのか」を明確にする！



この題材では、こんな
力を育てたいなあ。

<手順3> 「**評価規準の設定例**」を参考に「題材の評価規準」を作成する。



※ 国立教育政策研究所

「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>



どのような指導が必要かを
考えよう！

何をどのよう
に評価するか
を決めよう！

小学校3年生「だんボール 切って つないで」の例で具体的に評価規準を設定してみましょう

3 ページの評価規準設定の進め方の手順に従って、小学校3年生の題材「だんボール 切って つないで」を例に評価規準を設定してみましょう。この題材は、切った段ボールの形や身近な場所の特徴を生かして、組み合わせ方やつなぎ方を工夫して思い付いたことを表すというものです。

ここでは「造形への関心・意欲・態度」の評価規準を設定してみましょう。

<第3・4学年の観点「造形への関心・意欲・態度」の例>

<手順1>

取り組みたい題材を決めます。



今度の題材は、3年生の造形遊び
「だんボール 切って つないで」にしよう。

<手順2>

「評価規準に盛り込むべき事項」の表現(1)の関心・意欲・態度の項目を確認します。

【「A 表現(1) 造形遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
身近な材料や場所などの形や色などに関心をもち、自分の思いで造形的な活動に取り組もうとしている。	身近な材料や場所などの形や色などを基に造形的な活動を思い付いたり、話し合いながら考えたりしている。	手などを働かせながら、材料や用具を使い、組合せ方やつなぎ方などを工夫している。

【評価規準の設定例】(関心・意欲・態度)

<手順3>

「評価規準の設定例」を参考にして、この題材の評価規準を設定します。

- ・新聞や袋などの材料で、教室や遊具などの身近な場所をつくりかえることに取り組もうとしている。
- ・自分の見付けた場所で、自然の材料を並べたり、木の枝をつないだりする活動に取り組もうとしている。
- ・木切れなどの材料を組み合わせたり、釘を打ったりすることを楽しもうとしている。
- ・段ボールや厚紙などの材料を切ってつなぎ活動を楽しもうとしている。

この題材で設定する
評価規準(例)

【造形への関心・意欲・態度】
段ボールを切ったり、つないだりする
ことを楽しもうとしている。

なるほど！こうやって評価規準を
作ればいいんだ！



評価規準の文末表現をみてみましょう

実際に評価規準を設定する際に分かりやすいように、4つの観点ごとの文末表現の例を挙げています。文末表現は、子どもの活動状況を表すキーワードでもあります。

■ 「造形への関心・意欲・態度」

- 表現活動の場合 「～取り組もうとしている」「～楽しもうとしている」
- 鑑賞活動の場合 「～味わおうとしている」「～楽しもうとしている」

■ 「発想や構想の能力」 → 「見付けている」「～思い付いている」「～考えている」

■ 「創造的な技能」 → 「～工夫して表している」「～工夫している」

■ 「鑑賞」 → 「～に気付いたり、楽しさを感じたりしている」 「～をとらえたり、感じ取ったりしている」



■「造形への関心・意欲・態度」は、どうやって評価するの？

自分の思いをもって、進んで表現や鑑賞の活動に取り組むことや、その過程や結果においてつくりだす喜びを味わっている児童の姿を評価します。挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意します。



⇒ 発言や行動などの観察・ワークシートやレポートの作成・発表など

■「発想や構想の能力」は、どうやって評価するの？

形や色、材料、用途等を基に、自分の表したいことを思い付いたり、いろいろ考えながら表現に見通しをもったりしている児童の姿を評価します。

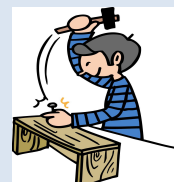


「発想や構想の能力」には、表現のはじまりにおける発想や構想、表現の過程における発想や構想を位置付けています。ですから、設定する題材のどの場面で、どのような方法で評価するのかということを明確にすることが大切です。児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などということは、児童の動きや視線、対話などからおおむね理解できます。

⇒ 発言や行動などの観察・児童との対話・アイディアスケッチ・イメージマップ・ワークシートや感想文など（P 7～P 9 参照）

■「創造的な技能」は、どうやって評価するの？

自分の表したいことに応じて、感覚や経験を生かしながら、材料を用いたり、表し方を工夫したりしている児童の姿を評価します。

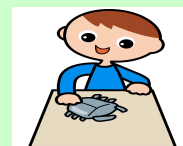


作品をみる際には、作品の全体の印象だけでなく、作品の部分にも着目し、材料や用具をどのように使っているかなどを具体的に捉えることが大切です。

⇒ 作品・発言や行動などの観察・製作過程の写真（P 8 参照）・ワークシートなど

■「鑑賞の能力」は、どうやって評価するの？

美術作品や自他の作品などの形や色から、表現の面白さを感じたり、よさを把握したりしている児童の姿を評価します。



「鑑賞の能力」を評価する際には、〔共通事項〕で示された形や色、イメージの視点から評価をするようにします。

⇒ 発言や行動などの観察・ワークシートや感想文など

6 小学校図画工作科における学習評価事例 ① <一題材のどこで何を評価するのか>



事例①では、1つの題材のどの場面で、どの観点を、どのような方法で評価するのかということについてご紹介します！

1 題材名 表し方をくふうしよう「わたしの思い出の場所」(5・6年)

2 題材の目標

- 自分の気に入っている場所や思い出の場所の美しさやよさを感じながら、
表したいことに合った視点(構図)や表現方法を考えて、絵に表す。



3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①感じたことを大切にしながら、表したいことの主題を見付け、絵に表すことに取り組もうとしている。	①表したい主題に合った視点や画面の構成、配色等を考えている。 ②表したい主題に合った配色や描材などを考えている。	①表したいことを効果的に表現するために配色の仕方や筆の使い方などを工夫して表している。	①作品に込められた友達の思いや表現のよさや美しさを捉えている。

4 題材の指導と評価の計画(6時間)

時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	○ 自分の気に入っている場所や思い出の場所のよさや美しさを考える。 ・ 自分の気に入った場所や思い出の場所を探す。	①感じたことを大切にしながら、表したいことの主題を見付け、絵に表すことに取り組もうとしている。(観察・対話・ワークシート)	どのようなことを感じ、どのようなことを伝えたいのか考えながら、色々な場所から見たり、見方を変えたりしながら描く場所を探しているか見取ります。児童の様子を観察したり、対話したりして学習の状況を捉えようとよいでしょう。		
2	○ 表したい主題に合った視点や画面の構成を考えながら絵に表す。 ・ 感じたことや伝えたいことを基に主題や表し方を構想して絵に表す。		①表したい主題に合った視点や画面の構成、配色等を考えている。 (ワークシート・観察・対話)	ワークシートを工夫して、表したいことやその場所を選んだ理由などを書かせるようにします。また、その場所の思いに合った構図の取り方や配色を思い付いている様子を捉えます。	
3・4・5	○ 表したことに合わせて材料や用具の特徴を生かしたり、いろいろな表現方法を組み合わせたりして、表し方を工夫する。 ・ 表し方を工夫して絵に表す。		②表したい主題に合った配色や描材などを考えている。 (観察・作品)	①表したいことを効果的に表現するために配色の仕方や筆の使い方などを工夫して表している。(観察・作品)	自分の思いに合った色や描材を選んでいたり、筆のタッチを生かして色の付け方を工夫したりしている姿を捉えます。
6	○ 感じ方や表し方に共感したり、自分と比較したりして多様な見方をする。 ・ 友達と作品について話し合う。	児童が自分の作品について話したり、表したかった主題と作品を重ねながら友達の作品のよさや面白さを味わっている姿を観察や対話、ワークシートなどから捉えます。			①作品に込められた友達の思いや表現のよさや美しさを捉えている。 (観察・対話・ワークシート)

<観点別評価計画を立てるにあたっての留意点>

～指導と評価の計画を立てるときのポイント～

- 題材の内容、題材の時間数、年間指導計画との関連などを踏まえ、題材のどの場面でどの観点に重点を置くかを考えながら題材の評価規準を設定することが大切です。
- 1年間を見通して「評価すべき点を見落としていないか」、「適切に評価できる学習内容になっているか」、「評価が煩雑になっていないか」などを考えて評価の計画を考えることが大切です。



7 小学校図画工作科における学習評価事例 ② <具体的な評価の方法>

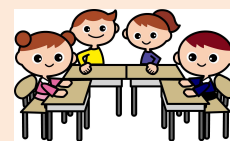


事例②では、評価のための情報収集や評価の方法についてご紹介します！

(1) 座席表の活用

座席表は、記録を簡単に書き留めることができます。

- 観察や対話を通してとらえた児童のつぶやきや活動の様子を適宜記入します。
- 記号を決めて記入したり、カラーペンを活用したりすると、後から分かりやすいですね。
- 矢印を用いたり、児童同士を線で結んだりすることで、児童と児童との関わりも記録として残せるといいですね。



伝えたいことを決める		〇月 △日() 特に◎	
みんな協力 笑顔とリボン → つなひき ◎	涙をふいて うれし涙 悲しい涙	どんな上へいく 階段 箱	
元気 → リボン ハタマキ	家族のきずな → 手と手、ハート ◎		笑顔いっぱい きく、ニコちゃん ◎
	楽しい笑顔、協力	みんな協力 つなひき、ハート	笑顔をおすけ 鏡を見る
△思いつかない → 日、月、星 太陽おはハート	元気な心 → 星の形、いいな おはハート	いのちのリボン + 手	笑顔の花がさく 何色もいいかな

グループよく話している

発想・構想の観点から児童の様子を観察し、記録した座席表

自分の伝えたい思いを工夫して表す		〇月 △日()	
人間が立たない 涙 → 色を変える → 手と手	涙 → 色を変える → 手と手	だんだん ◎ 箱の組み合わせ 高さを変化 → 脚り	
バレー + リボン 花の色をぬる	家族のきずな 星 + ハート + 手と手 → 手と手、考えている		笑顔いっぱい 同じ形いっぱい 切りの大変さ
クローバー、手と手	笑顔をおける → 手と手	協力 → つなひき 針金、輪、紙、つなひき	笑顔の鏡 鏡の所 → 銀紙の 下入れ
やや平面的 描きかき	プレゼント クローバーを利用	いのちのリボン	
日、星、月	元気な心 → 手と手	④ → 大きくした	
大きく変える 色 → 手と手	笑顔 → 手と手		

① 絵の具コーナーの水かき

技能の観点から児童の様子を観察し、記録した座席表

作品の途中の段階や特徴的な活動の様子などを記録することができます。

- 表現のプロセスを捉えて記録します。観察と対話を行う際に、適宜（１，２枚程度）撮影しながら全員の記録が残せるようにするとよいでしょう。
 - 撮影した写真には、日時を表示する設定にしておくと便利です。
 - 児童ごとに番号を付けて整理すると、表現のプロセスをみることができます。
- 



<图1-1>

思い付いた形を平面的に表している児童



<図1-2>

平面的な表現に棒をつけて立てようとしている。



< 図 1-3 >

段ボールの箱に棒を突き刺して立てることで安定し、立体的になった。



<图2>

撮影用の机の上で撮影



< 図3 >

撮影用の机の上で撮影

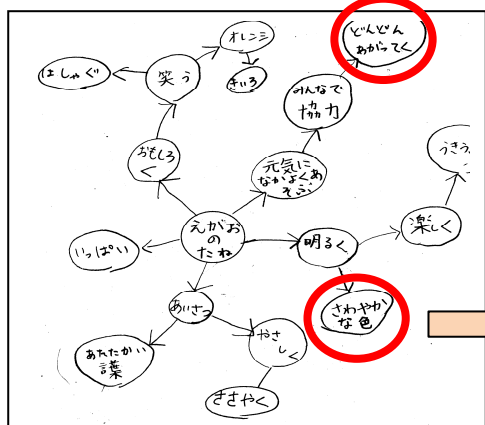
デジタルカメラで表現の過程を捉えるとき、図1のように観察や対話をしながら適宜撮影する方法と、図2、図3のように撮影用の机を用意しておき、授業の途中で全員分をまとめて撮影する方法などがあります。



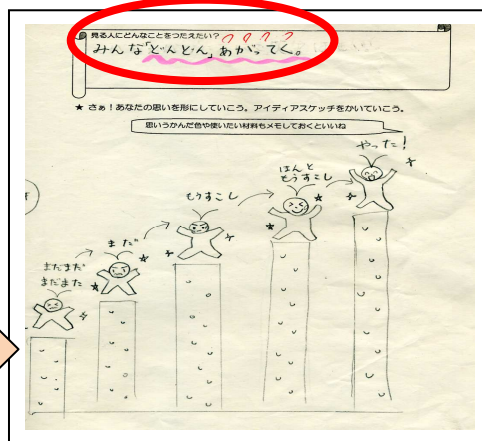
児童の自己評価ができると同時に、評価の重要な資料になります。

- ワークシートは、必ずしも毎時間書かせなくてもよいでしょう。短い時間で書けるように形式を工夫することが大切です。
- <どの題材で><題材のどの場所に位置付けるのか><どの程度の時間を費やすか>など配慮する必要があります。
- 言葉やアイディアスケッチをワークシートに残すことにより、児童の思考の過程や思い、表現の工夫を思い付いたことなどを知ることができます。

○ 高学年によるワークシートの例



イメージマップ

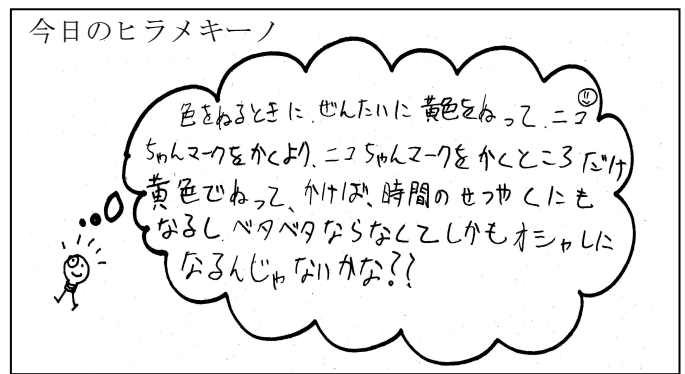
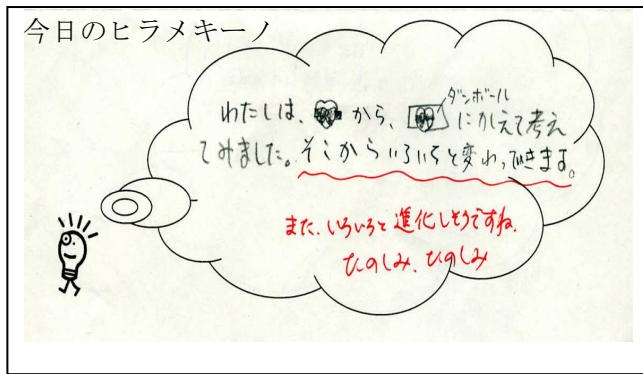


アイディアスケッチ

イメージマップから児童がどんな発想をしたのか読み取ることができます。

また、アイディアスケッチからは、1番表したいことや今思い付いている色や形などについても読み取ることができます。





その時間にひらめいたことや次時の構想を書いたワークシート

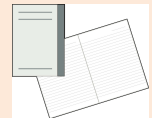
振り返りのワークシートから、その時間に児童が工夫したことや、次の時間に向けて構想を立てていることが読み取れますね。
また、このような児童の記述から、それぞれの児童へどのような指導や支援をすればよいのかということを考えることもできます。



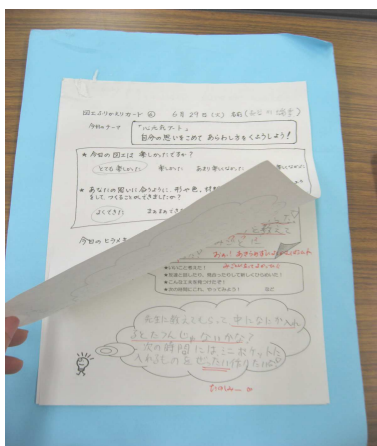
(4) ポートフォリオの活用

経過写真やワークシートを蓄積して、学びの変容を確かめます。

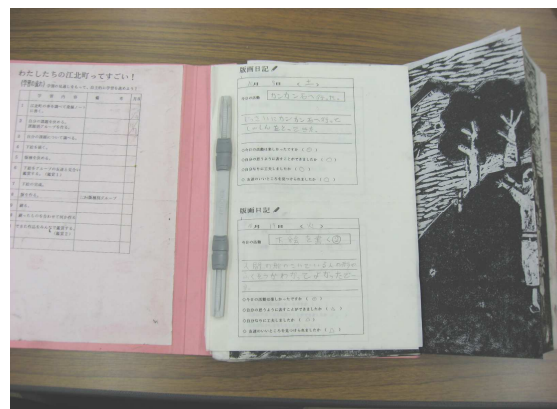
- 座席表などに活動の様子を記録したものと、作品の経過写真やワークシートを蓄積したポートフォリオを合わせて読み取ることで、児童の変容を確かめることができます。
- 写真用のミニアルバム等を用いたポートフォリオは、絵も立体も形や大きさにかかわらず同じように保存するのが便利です。
また、学期ごとに家庭に持ち帰らせることで、児童の学習の様子について保護者に知らせることもできます。
- 中・高学年では、ノートやスケッチブック、ファイル等を活用するとよいでしょう。ノートは数年間利用でき、ワークシートを貼ったり、児童が直接書き込んだりすることができます。



○ ポートフォリオの例



ワークシートを台紙に貼り付けた
ポートフォリオ



イメージマップや下がきなどもファイル
したポートフォリオ



ついつい、感想の文章の長短のみで評価をしてしまいがちな鑑賞の能力の評価。
「鑑賞の能力」はどのように評価すればよいのでしょうか。
事例③では、鑑賞の能力の評価の方法について具体的にご紹介します！

例：岡本太郎の「明日への神話」を鑑賞した後に書いたワークシートの記入例と評価

■ 「おおむね満足できる」状況（B）と評価する例 ■ 「十分満足できる」状況（A）と評価する例

この絵は、こわい感じがします。下の方に、燃えている人が何人かいるし、へびみたいなものもかいてあるからです。まん中に大きな人が立っています。おもしろい所もあります。顔みたいなものがおもしろいです。

下の方の煙を出しているのは、クジラかな。船かな。

私は、この絵を見た時、こわいと思いました。
黒っぽい空におそろしい形をしているものがかいてあったり、赤い炎に囲まれたりしているからです。画面の左の方の人は助けを求めているように見えます。でも、色がとてもあざやかです。

原ばくの悲劇を乗り越えようという思いが、赤や黄色のあざやかな色や、真ん中の人の顔が上を向いているところから分かります。

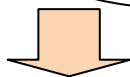
左の記述は、その絵から受けたイメージとその理由を書いています。絵の中に見付けたものやそれから想像したことも書いています。

右の記述では、思ったり感じたりしたことの根拠を、作品の中の色や形、描き方などの視点に触れて書いています。（下線部）

「鑑賞の能力」を捉える時、**【共通事項】**に示されている**「形や色」「イメージ」**などの視点が手掛かりになります。**「形や色」「イメージ」の視点から**ワークシートや発問を具体化していくといいですね。



そうかあ、ただ感想を書かせるだけではいけないんだね。では、「鑑賞の能力」を見取るとき、具体的に児童にどんな投げ掛けができそうかな・・・

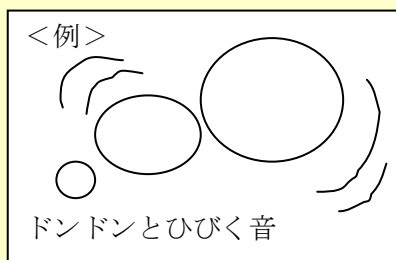
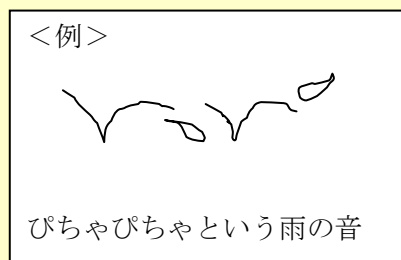


「鑑賞の能力」は、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどの言語活動を通して高めていくことができます。その際、一人一人が自分の根拠をもって話したり、考えたりできるようにすることが大切です。

言葉や絵、図、身体で表現するなど、いろいろな言語活動を効果的に取り入れると、一人一人が何を感じ、何を考えているのかなどを把握することが容易になります。

例えば、こんなことから見取っては・・・鑑賞活動における言語活動いろいろ

- パッと見て感じたことを言葉にする。
- 五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使って、作品から感じたことを言葉にする。（どんな音が聞こえる？」「どんなにおいしそう？」「どんな味だろうね？」など）
- 絵の中の登場人物になって一言いう。
- 作品の中の色や形、色や形の組み合わせについて感じたことを書く。
- 作者はどんな思いでこの絵をかいたのか話し合う。
- 絵の中の人と同じポーズをしてみる。なりきる。どんな感じがしたか書く。話し合う。
- 絵から聞こえる「音」を記号で表す。



9 小学校図画工作科における学習評価の進め方 Q & A

Q：すべての題材で4つの観点を均等に評価しなければならないのですか？

A：すべての題材で4つの観点（造形への関心・意欲・態度，発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力）を均等に評価しようとする、資料の収集に追われて、十分に評価できないだけでなく、指導もおろそかになることも考えられます。



そこで・・・

それぞれの**題材において評価の重点をしぼり、年間を見通して評価の機会を設定する**ことが重要です。



例えば・・・



この学年で取り組む題材とその題材で重点的に評価を行う観点をみてみよう。

月	時	題材名	関	想	技	鑑	備考
4	2	「私の見つけた春」A表現（2）	◎				
4	2	「材料からひらめいた！」A表現（2）		◎	◎		アイディアスケッチ・作品
5	4	「広がる ふくらむ」A表現（1）		◎			
6	1	「おもしろ形みつけ」鑑賞				◎	ワークシート

図画工作科では、6時間かけて工作をすることもあれば、1時間で絵をかいたり、2時間連続で造形遊びを行ったりするようなこともあります。すべての題材で、4つの観点を均等に評価するのは難しいですね。そこで、このような年間の題材と評価の観点をまとめた一覧表を作成するとどうでしょうか。

このような一覧表にすることで、題材の配列や領域、評価の観点について系統的にみることができます。年間を見通して、評価の観点が偏っていないかバランスを考えることも必要です。

1つの観点に関して複数の題材を通して評価することで、児童の成長を継続的に把握することができます。

Q：評価の観点に重点をおくとき、どんなことに気を付ければよいですか？

A：重点をおいて評価活動をしたときに、実際の児童の学習活動と離れてしまう場合があります。

例えば、手などで破った段ボールの形から思い付いたことを平面に表す第4学年「段ボールをやぶってみたら・・・」という題材で

先生はこのように考えていました。



「発想や構想の能力」を重点的に評価しよう。

ところが、児童は下のように考え、活動を進めていこうとしています。

段ボールを使って立体的に表そう！どんなふうにつくって
いこうかな



児童は、思い付いた形を実現させるために、「創造的な技能」を働かせることになりました。

★ 題材ごとに重点をおく場合、実際の学習状況や児童の実態に応じて、柔軟に考えたり、妥当性から評価の観点を見直したりする必要があります。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>